

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2894800040		
法人名	社会福祉法人関寿会		
事業所名	グループホームはちぶせの里やぶ		
所在地	兵庫県養父市十二所819番地		
自己評価作成日	平成29年3月27日	評価結果市町村受理日	平成29年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成29年5月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・周囲の山々、田園風景、木のぬくもりの中で、家庭的な環境を目指し、一人ひとりができる事を大切にして頂けるように取り組んでいる。私達は、ケアパートナーとして、出来るだけ日常生活での自立をサポートし、自尊心や達成感を感じて頂けるよう心がけています。グループホームが家庭的な雰囲気になるように入居者同士や職員も含めた、馴染みの関係性が構築され、入居者、ご家族様に安心して頂ける施設になるように努めています。入居者の家族関係や家族の思いをしっかりと受け止めるようにしています。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の現状は、平均年齢91.06歳、平均介護度2.22であるが、散歩や外出、協働での作品制作、食事手伝いの機会等をこなし元気な人が多い。年に一度の家族交流会には8割を超える家族多数の参加があり、GHと家族、地域の人々が支え合っている様子が浮き彫りとなっている。盛んなボランティアの方々のかわり等もあり日常生活の様子も記録された手紙が家族に届く。職員は、看取りの経験を積んでいるが、職員の法人内異動もあり、さらに利用者に関わり水準の高いケアを展開することし、一層の実力涵養を組織目標に据えチャレンジしている。経験豊富な管理者が、率先して新しい取り組みに挑戦する等、こうした中で育つ介護の担い手には高齢化が進行する地域の中で期待が大きく、利用希望者の待機も見られる。また、施設の環境整備にも努め、市や地域の協力もあり土砂流失等の危険回避や事業所棟の保守管理を進め、安全と快適なケアの推進を図っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ノーマライゼーションの実現・共に楽しみ、共に喜び、共に生きる施設づくり・人に尽くし、人を愛し、人に愛される人材の育成の基本理念を基に、会議や日常生活の中で伝え、常に意識するように伝えている。施設内に法人理念を掲示している。	木造平屋建ての白鳥・孔雀の2つのユニットが左右両翼に配置されている。法人と事業所理念が浸透し、財と位置付けられた職員たちはこれを意識・共有し、良い人間関係の中でケアが進められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域行事に参加させて頂く機会が増えてきた。(ふれあい喫茶・クリスマス会)。地域には、3か月に1回、施設の広報誌を配布し、グループホームの生活の様子を伝えている。積極的に参加をしている。(中学校行事、地域の文化祭・祭り等)	四季ごと発刊の市広報と共に配布される法人広報誌に本GHも登場し、事業・行事・各種の交流が地域住民にも周知されている。地域行事やふれあい喫茶への参加、多種のボランティアの来訪による入居者との交流状況等も発信されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・グループホームに対する理解と協力を常に伝えていかなければならないと感じる。本年度は、地区の行事に参加ができた。見学に来られる方や地域の行事に参加した際には、認知症に関する悩みや福祉サービスの説明をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・施設開設時から、2か月毎に運営推進会議を開催している。施設の運営状況の報告と情報交換の場を持っている。少ない意見ではあるが、会議で出た意見を参考にし、サービスの向上に努めている。区長の任期も増え、関係づくりがしやすくなってきている。	運営委員会は隔月に開催されている。運営状況の報告や情報交換、良いケア実践への提案等が積み重ねられる。特に、区長や民生委員の長期に在任は地域との一層の関係強化を支える。また、多くのボランティアによる活発な支援活動は利用者との協働の成果物を作り出す等の特色がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の地域包括センターの職員様に運営推進会議に出席して頂き、入居者の状況や運営状況を報告して連携をしている。事故報告書や待機者状況の報告をしたり、何かあれば都度の報告をするようにしている。	運営推進会議における市職員からの情報入手や運営についての指導助言もあり、スムーズな支援協力がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の具体的な行為が理解できるように、研修会、勉強会の機会を持って意識の統一を図っている。玄関の破錠や、離脱センサーもあるが、夜間防犯のみ使用し、その他は、解放している状態でケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルをもとに研修やミーティングで学び合っている。防犯用に職員数が限定される夜間や敷地内への出入り制限のための外柵も設置した。防犯上、夜間のみ玄関施錠とドアの各所に光と音を発する離脱センサーを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	・虐待防止に関した、資料であったり配布したり、ニュースでも取り上げられた内容は、職員に発信し、虐待とは？を意識するように努めている。	研修、勉強会で虐待防止について学び合っている。事故・事件等のニュースの情報等も、その都度、職員に発信し、虐待防止の意識付けを行うとともに、見逃されないように努めている。言葉かけも伝わっているかと適否にも留意している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・施設内の研修の項目にある「権利擁護」についてに参加し入居者の尊厳を保持するべく、ケアプランの「サービス内容」に反映し、カンファレンス等で職員へ周知に努めている。職員の理解度には偏りがあるため課題もある。現在、成年後見の利用者はない。	法人の職員を対象とする研修と隣接の朝来市の関係研修等へ参加し、その結果を伝達する手法も交えて利用者の人権や、権利擁護を学んでいる。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約締結時は、入居者、ご家族様に説明を行い、不安点、疑問点に答える事で、理解と納得を得ている。入居後も、ご家族様の意見を取り入れたりと努力をしている。いつでも相談できるように信頼関係の形成に努めている。	契約を締結する際には、時間をかけて十分説明し、不安なことや疑問点に十分こたえたうえで、理解・納得を頂いている。入居後も家族の安全、快適な生活への要望に沿うよう相談、対応に配慮している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族様の訪問時は、出来るだけ、お話をする機会を時間を持つように努めている。年に一度、家族交流会を開催し、多数、ご家族様が来られる為、要望を聞く機会となっている。訪問の際に伝えにくい事があれば意見箱に意見を記入して頂くよう、配慮している。	家族来訪時、運営推進会議への参加時や、年1度の家族交流会等で、家族の意見・要望をお聞きし、事業運営とケアの充実に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・2か月に1回、全体会議を通して、意見交換を実施している。職員代表を通じて、職員の要望、提案を聞く機会を設けている。可能な限りであるが、要望を取り入れようとしている。相談しやすい環境や管理者、職員の壁を越えた関係性作りに努めている。	隔月に開催する全体会議では、意見交換をする。ケアサービスや事業所の環境整備等の意見が出る。また、年1回、労働条件についてのアンケートを実施するがその中でも、意見や提案、要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年2回の人事考課を実施し、職員個々の努力や実績を把握し、職員がやりがいを持てる職場にしようと努めている。労働時間の見直しで残業をしない就業時間厳守の啓発に努めている。シフト後30分以内には仕事を終えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人の年間研修スケジュールに沿って、職員の段階育成が図れるように職員の知識、技術の向上を目指している。スキルアップへの窓口は開いているが、研修後の他職員への伝達が不足している部分がある。偏りはあるが、外部研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・養父市には、同法人のグループホームしかないため、隣の市の朝来市のグループホーム連絡会に参加させて頂き、情報交換をしている。考え方や、意識の改善が図れるようにしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居までに、ご自宅に訪問して、ご家族様を交え、本人さんと面談を行い、本人さんが困っている事、不安な事を聞かせて頂き、入居され、環境が変わっても安心して生活できるように環境整備と職員との信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族様の困っている事や、不安に思われる事に、耳を傾け、安心して任せられる施設となることで不安を軽減して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、出来る限り、本人、家族様の状況を把握し、まず、何が必要なのか支援の方向性を話あっている。ケアプランはこだわりを持ち、家族様にも理解しやすいように、ニーズを具体的に記載するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来る事はどんどんして頂き、日常生活の中で役割を持って頂き、自尊心が増すように支援に努めている。入居者の方から学ぶ姿勢を大切にしている。生活歴から支援の幅を拡大していくようにしている。畑作りに本腰を入れる予定。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・訪問時には、入居者の日々の生活の様子を伝え、職員と家族様が同じ認識を持てるように努めている。電話での対応、1か月に1回施設での生活の様子をお便りにて報告をさせて頂いている。お便りは家族様にも好評である。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所前からの主治医やいきつけの美容院にも行って頂いている。家族様以外でも、友達、知人、仕事場の後輩など、気軽に施設へ訪問されている。アセスメントでは、生活史の情報収集に力を入れています。	馴染みの場とは、GHIに入居しても可能限り関係や交流が続くように支援している。旧友等の来訪もあり、満足感が見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・常に見守りの姿勢を持ち、入居者の方が孤立しないように仲間として、お互いが支え合う、関係づくりに努めている。部屋で過ごされる事は少なくリビングや食卓のテーブルで過ごされている。職員が一緒に関わるように、環境づくりや関わりを作っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院時には、病院のソーシャルワーカーに連絡をしたり、状態確認を適宜行っている。法人内の他部署と連携をし、可能な限り、最後までお世話をさせて頂くことを目標としている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日頃の本人さんの言葉を聴くことを大切にしている。ケアプランのニーズにも、本人さんの言葉を尊重してニーズを挙げている。また、意思疎通が困難で、ニーズを言語化できない方については、家族様、介護支援専門員等からの情報を活用し、出来る限り、入居者の希望を叶えられるように心がけている。	日頃から利用者本人の言葉をよく聞くようにし、言葉から出るニーズをケアに反映するよう努めている。意思疎通が難しい方についても加速や関係者等からの情報を活用し、ニーズの把握とそれが叶うように心がけている。必要情報の共有のためIT化を進め、全職員がこなすことによってケアへの注力に生かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人さんの生活歴を、入居者・家族様から聴かせて頂いている。専門的な評価が必要な場合は担当介護支援専門員に生活の様子を聞くように努めている。家族様の訪問時の機会を利用し、モニタリングを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・アセスメントを担当職員を中心に行い、モニタリングやカンファレンスの充実を図り、必要時に会議をしている。記録入力にはこだわっている部分がある。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族様からの意見要望を聞き、入居者の言動、日々の様子、本人さんからの要望等から、ミーティング内でも話し合い、カンファレンスを充実させ、介護計画を作成している。法人内でケアカンファレンスマスター研修を実施し、スキルアップを図っている。	家族の意見要望、利用者本人の日常の様子・言動、要望等を聞き、ミーティング内容の充実を図りカンファレンス内容を充実し介護計画につなげている。法人内のケアカンファレンスマスター研修の実施により職員個々のスキルアップを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録を記入し、変化があった事や重要な事は申し送り事項に記録したり、口頭で説明をして情報共有をしている。また社内の情報共有のツールとしてサイボウズメールでの発信でより深い情報共有を法人内で実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・入居者の帰宅支援、家族様の宿泊希望への対応等、柔軟に対応をしている。、個別の外出希望や課題により、カンファレンスを関係機関と実施し、ご本人が安心して暮らしていけるよう可能な限り対応していけるよう取り組んでいる。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・区長、民生委員の方と協力し、可能な限り、災害、緊急時に双方で協力できるような体制作りが築いていけるよう努力している。行政の連携については、認知症支援ネットワーク会議にも参加している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医と連携を深め、毎週、週1回訪問看護健康相談の日を設けて、助言を頂いている。入居者の体調の変化があれば、その都度対応をさせて頂いている。24時間対応できる体制を整えている。定期的な通院もしており、施設、ご家族様の協力のもと眼科・歯科受診も協力して通院の継続はできている。入所前のかかりつけ医の受診は家族様対応で受診をされ、情報提供も行っている。	週1回・訪問看護による健康相談日には、本GH開設時からのまま5人の看護師がローテーションで来訪する。夜間の緊急医療Onコールは看護師から医師へ取り次がれ、多くの場合、医師が対応される等良い連携が見られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・協力連携医院の看護師とは、週に1回訪問看護健康相談を受け、ユニットの介護職員が、情報提供しながら、入居者の状態にあわせた適切な受診や薬の処方を受けられるように支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、情報提供による連携を行っている。また入院後においても面会訪問し、本人さん、家族様の要望を確認したり、法人内の他サービスとも連携をとりながら、可能な限り、早期に退院できるように努めている。	入院時の情報提供による連携、入院後の面会訪問により、利用者本人、家族の要望を確認し、法人内の他サービスとも連携を取りつつ、可能な限り、早期退院を目指している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化。看取りについての指針を挙げ、入居者の状態に応じ、適宜カンファレンスを行っている。家族の要望を聞きながら、施設で出来る事を説明し、対応している。実際に開所後、5名の方を看取りの対応している。今現在は3名の方が看取りの対応としている。	重度化、看取りの指針を掲げている。開所後これまでに5名の方の看取りを行った。今後、3名を看取りの予定としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時、緊急時の対応は、マニュアル化し、周知徹底を図っている。どんな時でも、誰も対応できるように常にシミュレーションを行うよう指導している。事故報告書を基に分析、対応策をそのつど考え職員への周知徹底、再発防止に取り組んでいる。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災時の避難訓練を年2回実施している。消防本部の方にも来て頂き、指導、助言を受けている。火災時、対応はマニュアル化し、周知徹底を図っている。避難誘導や、避難訓練実施を行い、振り返りを行い、入居者、職員の安全確保ができるように努めている。災害マニュアルも作成できており、物品を揃え、周知予定である。	火災想定避難訓練を年2回、前・後期に昼夜の想定を変えて実施し、AEDや防災機器操作訓練、避難誘導等を消防本部の指導を受けつつ行っている。職員への通報連絡は、携帯電話の連絡網で実施している。避難誘導の入居利用者自衛団の声もある。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者の尊厳や権利擁護については、会議体などで常に話し合いを重ね、不適切な言動があれば、常に職員同士が注意しあうようにしている。プライバシーについては、居室訪問時、入浴、排泄時には、心理面に配慮した対応を行っている。	開設時からの職員が多かったが、今回の法人内異動でベテランが他に転出した。利用者の尊厳や権利の尊重・遵守について、一層研修に力を入れることとしている。実質的な成長を促す研修の成果を期待している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・食事、外出、買い物、散歩など日常生活の中で入居者の思いや、希望があらわされるよう働きかけている。重度の認知症の方においても、可能な限り言葉を聴くように、配慮し、自己決定を尊重し、優先するようにしている。職員ペースにならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・入居者の生活歴に着目し、自宅からの生活リズムや思いを大切に、出来る限り、個別の対応が出来るように心がけている。入居者中心の暮らしがあり、業務中心型介護にならないように指導している。しかし、一人ひとりの活動性について個人差があり、職員のアプローチ方法によって活動の意欲の増減に繋がっている事も考えられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入居者により、外出の際、声かけをし、出かけられる服装にされてみたり、入浴、起床時の際にも、なるべく入居者の方に選んで頂けるよう声かけをしている。1か月に1度、施設訪問の理美容を受けて頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・行事、誕生日の時には要望を聞きながら、メニューを考えたり、楽しみの一つとなるように、毎月1度にリクエストメニューの日を設定している。ごちそう部門の職員が工夫しながら検討している。季節感のメニューを大切にしている。28年度からは付加価値を付けるため特養の管理栄養士が献立メニューの作成を基本としている。	共に昼食を頂いた。皆さん完食であった。栄養・メニューとも整った美味な和食である。特養管理栄養士によるメニュー化の効果も出ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎食毎に、食事摂取量を記録し、状態の把握を行っている。水分摂取量についても記録を行い、1日の水分量の把握を行い、状態に応じたケアを行っている。メニュー内容等は、ごちそう部門より検討して頂き、塩分量、カロリーにも配慮し、献立を立てている。健康管理と楽しみのバランスに努めたい。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアの促しを行い、必要に応じて介助もを行っている。口腔内の状況確認、義歯の不具合がないか、確認しながら食事がおいしく食べられるように、誤嚥性肺炎の予防にも努めている。毎月1回に歯科衛生士さんの訪問あり、歯磨き、義歯の手入れ、嗽等の支援、出血や炎症のチェック等を実施している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄表を記入しながら、入居者個々の排泄パターンに合わせた声かけへ誘導をしている。職員主体の声かけや、誘導にならないように指導はしているが、職員一人ひとりの意識は個人差がある。羞恥心や、プライバシーに配慮しながら行っている。	排泄自立の利用者が多い。羞恥心・プライバシーに配慮した排泄支援が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘の方が多く、緩下剤に頼らざる得ない状況もあるが、食事、水分に繊維質のメニューを取り入れたり、起床時に、冷たい水や、朝食事に乳製品、寒天を取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・基本的には入浴は毎日行い、週2回以上の入浴を心掛けている。入浴嫌いの方もおられる。入浴がその人の時間にあった入浴時間が提供できればと努力している。	2ユニットとも家庭用の固定風呂仕様で、週2,3回の頻度で入浴している。2人介助の利用者もあり、1つは介助浴のしやすい浴槽と交換を検討しては、との声もある。	浴槽の形態は様々である。介助のしやすさ等、機能的に進歩が見られる分野なので、介助労力面からも片方のユニットだけでも介助がよりしやすい浴槽との置き換えを検討の余地がありそう、一考願いたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・入居者のリズムに合わせて、その時々状況に応じて、休息したり、安心して入眠できる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬服用時には、職員が薬ケース内の薬を確認し、その都度、服薬確認をしている。管理者、ケアマネジャー、ユニットリーダーで薬の配薬管理をしている。状況に応じて、用途、容量を訪問看護師や主治医に相談をしている。服薬ミスがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・入居者の方がどのような人生を歩んでこられたのかを知り、その人にあった場面作りの支援を行っている。調理、家事、習字、手芸、畑仕事、過去の経験を生かした役割、出番、楽しみの取り組みを行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・一人ひとりのその日の状態を見ながら、外出支援を行ったり、散歩に出かけたり、喫茶に出かけたりと思索している。	小型車とワゴン車で外出支援の体制がより整備された。交通安全に留意しつつの外出支援の促進が期待できる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族様等、共に相談をして可能な限り、日常の金銭管理が本人さんが行えるよう、入居者一人ひとりの希望に応じて支援している。入居者の要望時は、買い物に出かけ、支払いのできる方はその都度、見守りの上行っている。金銭管理の難しい方は、施設側から立て替えとして必要物品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・大切な人と絆をつなぐ支援として電話や手紙のやりとりができるように電話の取次ぎ、手紙の投函を支援している。自分自身で出来る方は、ダイヤルを回し、好きな時間にされている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設からは外の景色がみられ、四季を感じる事ができる。共用の部分、個人の室内は清潔を心がけている。居心地のいい場所の提供に、花を飾ったり、行事内容を掲示したり、と工夫はしている。季節に合った飾り物をしたり、季節に応じた環境の提供をしている。	居間には一枚板の大食卓があり、高い天井の明るい空間が広がっている。浴室入口や畳敷き掘り炬燵のある和室スペースの利用は、今冬のように大雪の場合は、効果的であったとの感想が聞けた。玄関には、武者人形の飾り段、大きな共用空間に緋鯉真鯉が何匹も飾られて季節を現している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・入居者の方が、思い思いに過ごせる様、時にはお互いに距離を持って過ごすことができる場所となるようにテーブルの位置や席を配慮したり、ソファの位置を変えたりといった配慮もしている。入居者のトラブルは、職員が間に入りフォローをしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居者の居室すべてとはいえないが、入居時に馴染みの家具を持参され、使い慣れた物を使用している。今後も、引き続き、環境整備が必要だと感じる。	空調が設定されているほか、ベットは各自がレンタル利用。家具等の持ち込みでそれぞれに見合うマイルームとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりの位置や入居者の身体機能低下に合わせて、安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるように福祉用具の設置を行っている。家庭的な雰囲気を壊さず、場所の違いや分からない事での混乱を防ぐために、声かけの工夫や居室に表札を設置している。整理整頓も心がけている。		

## 基本情報

事業所番号	2894800040
法人名	社会福祉法人
事業所名	グループホームはちぶせの里やぶ
所在地	養父市十二所819番地 電話 079-664-2717


【情報提供票より】平成 29年 3 月 27日事業所記入

### (1)組織概要

開設年月日	平成21年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤13人 非常勤2人	常勤換算14.5人

### (2)建物概要

建物構造	木造平屋建て
	1階建ての1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(日額)	円	
敷 金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	50,000円	有りの場合 償却の有無	退去時修繕費	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり900円			

### (4)利用者の概要( 5月 22日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 91.06 歳	最低 77 歳	最高 95 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	公立八鹿病院・井上医院・養父歯科
---------	------------------

(様式2(1))

事業所名:グループホームはちぶせの里やぶ

## 目標達成計画

作成日:平成 29 年 6月 19日

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	・地域と事業所との付き合いを拡大していく。	・地域の方が気軽に施設訪問ができるようにする。・グループホームがどんな施設なのかを知ってもらう。・地域の会議に参加した際に養父市の現状把握やグループホームの受け入れ等についても伝達していく。	・地域へ行事ごとの案内や運営推進会議で行事の案内を積極的に行う。児施設で地区の皆さんと出来る交流を図っていく(夏祭り、餅つき等)	1年間
2	11	・職員の仕事へのモチベーションの底上げ	・仕事のモチベーションの維持	・法人全体でのコスト削減プロジェクトの発足。無駄をなくし、働きやすい環境作りをし、利益を確保する。成果を職員へ還元や備品の入れ替えに使用する。5S定(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)(定位・定品・定量)	1年間
3	35	・火災訓練など、地域の方と一緒に訓練が出来る機会を作るように努める。	・地域、養父市での防災訓練等を聞いたりして地域の中へ参加する。	・災害時、防災時などの地区の訓練、避難場所等の確認を再確認し、当事業所がどのように対応すればいいのか連携を図る。	1年間
4	45	・入浴が楽しむことができる支援	・入浴は秀2~3回入浴をして頂いているが、入居者の重度化に伴い、介助量も増えている事もあり、職員の負担軽減を図っていく。	・福祉用具の検討をしながら、職員の負担を軽減しながら、入居者の方にも安心して入浴できるよう、片方のユニットだけでも浴槽の改良が出来るよう検討していく。	1年間
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式2(2))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他(③に関しては提出はしているが、市区町村担当者との状況の話し合いは未実施 )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他(①全職員の話し合いには至っていない )